

大阪府立布施北高等学校学校運営協議会議事録

校名	大阪府立布施北高等学校
校長名	冨本 佳照

開催日時	令和7年2月1日(土) 9:30~11:30
開催場所	大阪府立布施北高等学校 展開1教室
出席者(委員)	松下 寛史(会長)、藤田 剛(副会長)、菊地 栄治(委員)、塚本 佳秀(委員) 浅岡 美和(委員)、棟久 香澄(委員)
出席者(学校)	校長、事務長、教頭2名、首席1名、教諭1名
協議資料	1. 次第 2. 令和6年度学校経営計画及び学校評価 3. 令和7年度学校経営計画及び学校計画(中期的目標について) 4. 学校教育自己診断資料一式(教職員用・保護者用・生徒用・比較資料) 5. 「総合学科3年次末アンケート」・「エンパワメントスクール3年次末アンケート」の結果について(集約・比較資料)

議題等(次第順)

- (1) 開会 校長挨拶
(2) 委員・教員の紹介
(3) 議事テーマ ①学校経営計画について ②学校教育自己診断結果について
③総合学科3年次末アンケート結果
(4) その他 ①地域学校協働本部の報告

協議内容・承認事項等(意見の概要)

- (1) 開会 校長挨拶

3年生は昨日で試験が終了し、来週のテスト返却と卒業式を残すのみとなった。1・2年生も学年末考査が間近に迫り、改めて3学期が短いことを実感。生徒には短い3学期だからこそ、進級に向けてしっかり勉強や授業に集中してみようと話をした。12月以降インフルエンザ、コロナの流行は一定あったが、大規模な拡大はせずにここまで来ている。

選抜に向けた2月の中学生進学希望調査における本校の志願希望者数は、特別選抜枠139名、日本語指導枠が14名の合計153名となり、昨年度よりもかなり少ない結果となった。先生方には「できることをしっかりやっていこう」と伝えつつ、学校の広報についてはさらに工夫していかなければならないと思っている。学校経営計画や学校教育自己診断について、後ほど報告するが、生徒・教員のアンケート結果は悪くなく、全般的には向上の傾向だった。これらについては、様々なご意見をいただき、よりよい取り組みにつなげていきたいと考えている。どうぞよろしくお願いいたします。

- (2) 委員・教員の自己紹介:

- (3) ①「R6 年度学校経営計画の結果」・「R7 年度学校経営計画」について(校長)

【R6 年度 学校経営計画・評価】

2. 中期的目標について

「めざす学校像」・「中期的目標」の章立ては、変更なし。より伝わりやすいように、表現を改めている。「学校教育自己診断」と「学校運営協議会の意見」についてまとめたものをご確認いただきたい。学校教育自己診断の分析については、診断項目ごとの上下を説明するのではなく、「学習指導」・「生

徒指導」・「学校経営」の3つにわけて傾向を分析する書き方に改めた。

○ 学習指導

- ・ 生徒の評価において、授業における先生の工夫や、先生に質問しやすい、といった項目が上昇するとともに、基礎からしっかり取り組めるエンパワメントスクールならではの取組みに対しても引き続き高いことから、手ごたえを感じていいのではないかと考えている。

○ 生徒指導について

- ・ 本校は校則に関して公立高校の中で比較的厳しい学校であるため、生徒の、学校からの指導に対する納得感には高い関心を持っているが、生徒たちが納得感を持っていることが確認できる評価が今年度も得られた。同じ項目の保護者からの評価は昨年度よりも少し下がっており、今後も丁寧な説明を心がけていく必要がある。
- ・ 保護者の結果については全体的に前年度よりやや数値が低くなっている点が気になるところ。「学校は保護者からの相談に答えてくれる」という項目の評価は上がった一方、学校側の連絡や意思疎通に対する積極性には物足りなさを感じている結果と読み取れるので、引き続き丁寧に保護者に説明していく必要を感じている。

3. 今年度の取り組み及び自己評価について

- ・ 学校経営計画の評価は、主に学校教育自己診断を指標としている。
- ・ 各項目の評価は3段階の記号で示している。評価指標を達成したものは「○」とし、その中でも前年度の値を上回ったものは「◎」、評価指標を下回った項目は△としている。

○ 学習活動の充実

【授業等について】

- ・ 先ほど説明の通り、授業に対する生徒の評価は比較的高かった。授業見学でも、取組みの内容はしっかりと工夫されていると感じた。
- ・ その一方で今年度は教職員による授業力の向上に関する研修があまりできておらず、先生方もそのように感じておられることを示す診断結果だった。次年度は、各教科やエンパワメントタイム等の授業内容のアップデート等、授業改善を進める取組みを進めていきたい。
- ・ ICTの活用については教員、生徒ともに肯定的な評価が高く、ICTの積極的な利用について先生方の手ごたえと生徒の評価が一致しているようである。

【生徒指導】

- ・ 欠席・遅刻の数値は昨年度よりも増加する傾向がある。
- ・ 不登校傾向の生徒が増えていることを踏まえて、今年度から通信制型の不登校等生徒のサポート体制を新たに構築し、スタートした。学校で学びたい思いはあるものの、教室に入れない生徒を対象に、試行錯誤しながら進めている。
- ・ 相談体制の充実について教員は手ごたえを感じていることが分かる結果となった。SCやSSWについて、運用方法が大きく変わったわけではないが、事案等に対応する際に、外部の専門人材を利用する機会が増え、相談体制の利用について実感する機会が増えたことが数値の上昇に結び付いたのではないかと。様々なケースにおいて、その事象の表面だけを見るのではなく、背景にどんな問題があるか、しっかり見極めることをこれからも大切にしていきたい。
- ・ 海外にルーツがある生徒に対する取組みは、今後更に力を入れて取組み、この内容に関する項目数値をさらに上昇させられるようにしたい。

【キャリア教育・進路指導】

- ・ 進路実現に向けてまだ奮闘中の3年生がいる。引き続き応援していきたい。
- ・ 今年もキャリア教育において、地域の方々に大変お世話になった。デュアルシステムのための地域学校共働本部との連携は、より深まったと考えている。
- ・ デュアル実習に参加していただいている事業所との意見交換会で話し合うべきテーマを、地域学校共働本部で検討した。「どのようなことについて実習先の方々と相談や意見交換をしていけばよいか」等について話し合うことができた。今年度の意見交換会も、内容が充実していたという肯定的評価をいただいている。生徒の様子は毎年変わるので、その時々に適した指導ができるよう常に柔軟に対応したいと考えている。

○ エンパワメントスクールの教育活動の充実】

- ・ 「エンパワメントスクールに入学してよかった。」と思っている生徒が多いことを示す結果を嬉しく思っている。
- ・ 昨日実施した、早稲田大学の菊地教授による本校3年生のインタビューで、教員が聞き取るのとはまた違った生徒の声を聴くことができた。様々な角度から生徒の声をきちんと拾って、学校生活の充実に活かしていきたいと考えている。

○ 働き方改革

- ・ 昨年度よりも教員の時間外在校時間が増加している。
- ・ スクラップ＆ビルドの「スクラップ」に関しては、管理職が業務の内容を見極めて様々な決断をしていく必要があると反省している。

【令和7年度学校経営計画】

- ・ 前年度から枠組みは変えていない。抜け落ちていて、新たに掲げなければならない目標は特にない。限りある学校全体の資源を何にどのように注力するか、その見極めと調整が大切だと思う。文言については、分かりやすく、シンプルになるよう修正している。
- ・ 項目の立て方について、中期的目標の項目立てと、今年度の取り組み内容が対応するように内容を整理している。

【松下会長】

- ・ 学校に行きたくても行けない、という生徒が自分の周りにいないため、そういった生徒の気持ちはわからない。人を相手にする学校は、教師の業務状況を改善のために何かを捨てる、ということは難しいと思う。
- ・ インターンシップに比べ、デュアル実習の出席率が低い数字になっていることが少し残念。
- ・ 実習先で、生徒が会社の中で起こるネガティブな場面にも遭遇することがあると思うが、その経験は、社会に出た際には色々な人がいる、ということを高校生段階から知ることができるという点で、大変良いことだと思う。

→【冨本校長】

- ・ デュアル実習は回数が多いため、2日だけのインターンシップよりも出席率は低くなってしまう。また、出席に不安がある生徒に対しても、デュアル実習に参加する機会を積極的に与えようとチャレンジしたことも背景にある。

【藤田副会長】

- ・ 実習に来ている生徒が、実は学校の出席率が低い生徒だという情報を後で聞くことがある。予め情報共有しておいてくれると、フォローできる余地がある。今後はぜひ事前に共有してほしい。
- ・ 各実習先・分野での受入れ人数の状況はどうか。

→【花井教頭】

- ・ 両日(2・3 年生)とも、受入れ可能な事業所が減ったことで、業種によっては、生徒が希望している分野への実習が叶えにくくなっている。特に介護施設や福祉施設、教育分野での実習先は、いつもほぼ埋まっている状況。製造分野については少し余裕がある。

【藤田副会長】

- ・ 製造分野においては、生徒が実習で業務を手伝ってくれるのは大変ありがたい。マッチングに関して、企業側は生徒を求めているも生徒があまりその分野を希望していない、ということもあるのでしょうか。

→【花井教頭】

- ・ 福祉分野や教育分野は受入れ先が増えるとありがたい。製造分野については今ある実習先に引き続き受け入れてもらえると大変助かる。
- ・ デュアル実習は、生徒たちが自身の各業種への向き不向きを確認する、という側面もあるが、一方で、様々な業種の現場で「社会に出るとはどういうことか」を学んでもらうことも大きな目的だと考えている。その気持ちを忘れないようにしたいと思っている。

【藤田副会長】

- ・ 昨日1年生の発表を見せてもらった。実習を受けて「その分野が自分に合っていなかった」と言える生徒がいるのは、一定の意味があることだと感じた。
- ・ 一つの要望としては、「デュアル実習の目的」や「めざす学校像」などを実習先の側でも共有できるように、実習生受入れの資料にも載せて欲しい。

【菊地委員】

- ・ 昨日『「進路多様校」のエンパワメント実践と支援構造に関する臨床的研究』の一環として3年生5名を対象にインタビューを実施させてもらった。いろいろな声を聞くことができた。
- ・ ある生徒は中学時代、国語が苦手な授業も苦痛だったが、布施北で勉強のやりかたが分かるようになった。1年生の時に授業を受けることにも慣れて、2年生からの50分授業でも大丈夫になった。本を読むようになったと話してくれた。
- ・ 入学する前に学校の説明で「エンパワメント」という言葉をよく聞いたが、中学生にとってはわかりにくく、イメージが湧かなかったし、今もエンパワメントという言葉がピンと来ていない、と話す生徒もいた。新しい世界を開くための入口となる、ポジティブな意味での「学びなおし」の意義や、布施北での学びが一生ものの経験になることが中学生にイメージできるようにする伝え方をもっと考える余地がありそう。布施北で実際に学んだ生徒のポジティブな声を外に届けていくための工夫が必要だと思う。
- ・ デュアル実習について、希望した職種と違う美容室に実習に行った生徒から、辛かったという声があった。できれば希望職種と同じような職種で実習できるよう、配属の配慮をしてあげてほしいと思った。
- ・ 渡日生の生徒が、渡日生の生徒と日本の生徒の交流機会が少ないので、もう少しそういう機会が欲しいと言っていた。

- ・ 布施北の魅力を中学生の視点で発信し、吟味しながら広報の工夫をしていくことが大事だと思う。
- ・ 学校経営計画に広報の要素があまり盛り込まれていない。
- ・ いい先生ばかりだった、という意見を生徒から聞くことができた。

【松下会長】

- ・ 企業のマーケティングと同じで、どれだけ良い商品でもマーケティングを行わないとその商品は売れない。学校も同じように中学生に向けてしっかりと広報を頑張してほしい。

【塚本委員】

- ・ 令和3年度から評価は上昇している。
- ・ 不登校の生徒にもっと寄り添っていかなくてはならないのではないかと。学校と地域がより丁寧に情報共有をすることで解決できる問題もあるのではないかと。
- ・ 渡日生徒への差別事象が増えている。来日直後で日本語に苦戦し、もどかしい気持ちを抱えている子がいるので、対応をお願いしたい。
- ・ (広報については)「生徒が生徒を呼ぶ」という観点もある。実際に中学生の気持ちになって生徒への対応を行ってもらえると良いかと思う。

【浅岡委員】

- ・ 学校が通信教育の制度を使った不登校支援について考えたり、気軽に相談できる先生がいたり、教育相談が充実していたりする、と聞いて布施北らしくてよいと思った。
- ・ 前回の会議での松下会長の話をきっかけに、どのようにすれば生徒が自分のやりたいことを発信できるようになるのかを考えていた。大人が子どもの成長を邪魔している事もあると思う。例えば学校では生徒間で問題が起こるのは当たり前であるが、保護者がそこに入っていくことで子ども自身が自ら考え、行動するチャンスを奪ってしまうことがある。子どもが自分で判断すること、意思決定することが大切ではないかと考える。2年生の生徒が個人的に子どもの権利に関する研修を受けてきて、「素晴らしかったのでぜひ学校みんなに受けてもらいたい」と学校に言ってきて、それを実現させた。自分の思っていることを先生に代わりに言って欲しいという生徒もいるが、自分でしっかり意見を伝えられる力を養ってほしいし、中学校もその力を伸ばせるように生徒をサポートしていきたいと思っている。

【棟久委員】

- ・ 私の子どもは、卒業後に進学するか就職するか悩みながら2年生になった。デュアル実習のおかげで進路への見通しを立てることができつつあり、非常に価値があるものとなった。デュアル実習を選択しない生徒でも希望すればデュアル実習に近い体験できるような機会があれば良いと思う。

(3) ② 学校教育自己診断の結果について【首席】

【巽首席】

- ・ 生徒についてはクロームブックにて2学期の期末考査後に実施、教員用は職員会議にて12月に実施、保護者はさくら連絡網から電子データを送付し、12月から1月にかけて実施した。
- ・ 回答数は生徒412、保護者145、教員52。保護者の回答数は昨年度も同じくらいだったが、それ以前の紙で実施していたところと比べると減っている。電子での実施に変更したことで、返答しないといけないという意識が低下したのではないかと。

- 生徒の調査結果では多くの項目でポイントが上昇した。
- 保護者の調査結果は、多くの項目で昨年よりもポイントが減少した。「よくわからない」という選択肢があり、項目によってはこの選択肢が多く選ばれ、肯定的評価の割合が低下している。いじめ等に関する項目で顕著。ポイントは下がったが、肯定的評価の割合は増加した項目もある。
- 教員の調査結果は、おおむね上昇傾向であった。
- 全体的に、生徒指導等で生徒に寄り添うことへの意識や、SC 等の活用が進んだことが、昨年度よりも生徒からの肯定的評価が上がった原因ではないか。
- さくら連絡網の使用は保護者・教員、双方の負担軽減となると考えていたが、直接的なやり取りが減ることによるデメリットの部分もあるかもしれない。

→【松下会長】

- 世の中全体の流れとして、直接的な人とのやり取りが少なくなっていると感じる。

→【棟久委員】

- 紙だと提出しないといけないというプレッシャーがあるが、データだと便利な反面、つい後回しにして提出を忘れてしまうことがある。回答はデータ、案内はQRコードを印刷した紙の配布、といった形で実施するのが丁度良いかもしれない。

→【塚本委員】

- 回答される保護者は、女性が多いのでしょうか。男女差はありますか？

→【棟久委員】

- 周囲を見る限りでは、母親がさくら連絡網に登録している場合が多く、回答者の多くは女性であると思う。高校になると PTA 役員もほとんどが女性になっている。

(3) ③大阪府内の総合学科に通う高校3年生対象の調査結果について【教頭】

【花井教頭】

- 全般に高い数値を保っている。
- しかし16番の「後輩にデュアル実習を進めたいか」については10%ほど減少した。校内研修において、実習で何を頑張りたいか、身に付けたいか、を前向きに考えられるような工夫が必要かもしれない。校内研修と校外での実習の両方でしんどくなってしまった生徒は、3年生では実習を選択しないケースもある。
- 詳細を把握するうえで、アンケート項目によっては、校内研修に関する質問と校外における実習に関する質問を分ける必要があると考えている。
- 45期生はこれまでよりも3年生に進級した生徒が多く、登校・コミュニケーションが難しかった生徒も少なくない中で、教員も生徒もよく頑張っていると感じている。

【棟久委員】

- 校内研修が一番しんどい、と言っている生徒が多いと聞いている。

(3) ③エンパワメントスクールに在籍する3年生対象の調査結果について【教頭】

【花井教頭】

- 例年とほぼ同様の結果になった。
- 16番の項目(SC,SSW、CC の活用についての質問)は少し減少した。活用対象となった人数が少なくなったことを反映しているが、対象となった者は、継続して利用するケースが増え、延べ人数は増えた。

【藤田委員】

- エンパワメントスクールとはどんな学校なの？

→【花井教頭】

- 総合学科の高校が府内に26校あり、これらは選択科目が多く興味や進路に応じて自分で授業をデザインできるところが大きな特徴。本校でもデュアル実習を選ばない場合、3年次に最大で12時間の授業を自分で選ぶことができる。そんな総合学科のうちの6校がエンパワメントスクール。「学びなおし」と「エンパワメントタイム」があるというところが大きな特徴です。それに加えてデュアル実習があるというのが布施北高校。

→【冨本校長】

- 普通科と工業高校、商業高校など専門学科の良いところを取った形でできたのが総合学科です。その中でさらに基礎・基本の学習にも取り組める仕組みを設けたのがエンパワメントスクール。総合学科の仕組みをつかってキャリア教育を充実させているのが布施北高校の特徴。

【菊地委員】

- 入試の倍率をみると、工科高校に次いで総合学科で生徒数が減ってきているが、いろいろな選択科目を用意する必要性を考えると、授業を展開する上でしんどくなってくると思う。総合学科設置に対する加配の割合はどうなるのか。

→【冨本校長】

- 本校は、付けることのできる加配はほぼいただいている状況である。総合学科による加配もある。次年度の入学者が175名を下回ると4名の教員減となるので、憂慮している。現在、総合学科の学校は1学年6クラスのところが多いが、かつてはどの学校も8-9クラス程度だった。生徒数の減少に伴ってクラス数の減で対応してきたが、6クラスの学校が多数になり、これ以上クラスを減らして学校が成立するのか、というのが大阪府全体の課題になっている。

【菊地委員】

- 校内研修はコロナの影響で1日中、6時間実施することになったもの？

→【花井教頭】

- いいえ、もともと6時間かけて実施してきた。

→【冨本校長】

- 校内研修の内容等についてどうするのがいいか検討することは、優先的な課題だと思っている。デュアル実習については、事前の準備や参加するまでのハードルを高くしていた部分があるが、様々な生徒が臆さずにチャレンジできる方向にシフトしてきている。「企業に迷惑をかけないようにしたい」という教員のマインドがどうしても強くなる部分がある。学校も企業も一緒に、しっかりと生徒を育てていくという覚悟が必要だと思う。

→【松下会長】

- 学校側が企業を教育するくらいの気持ちでよいと思う。地域の生徒なので、一緒になって生徒を育

てていく気持ちを大切にしたい。企業側に説明をお願いすることがあるときは地域協働本部を活用してもらおうと良いと思う。

【松下会長】

- ・ポスターやスライドを作成するというのは手段でしかないので質問項目から消してもよいのではないか。

→【藤田副会長】

- ・私はこの項目はあってもいいと思った。昨日参加した発表会でも、端末を活用して、スライドを使った発表がしっかりとできていた。おとなしそうな生徒が自身の興味のあることについて、いきいきと発表する姿を見ていて、当該生徒の充実感が高いのではないかなと思った。

→【花井教頭】

- ・「自分の考えを相手にわかりやすく伝えるために、スライドやポスターを作成すること」のような選択肢への変更を検討してみます。

→【塚本委員】

- ・パワーポイントやスライドの活用は大切なスキルであると思う。次年度以降、アンケートでの聞き方を変えてあげると良いと思います。

→【藤田委員】

- ・デュアル実習の経験について、実習先で最後にスライド等を使って発表してもらう機会を作ってもいいのではないかなと思った。

④ 中川教頭から地域学校協働本部の報告

- ・1月17日 第3回協働本部を実施。菊地ゼミから学生も3名参加した。
- ・12月18日にデュアルの意見交換会の報告を行った。
- ・広報については、SNS を使用したものが主流となりつつあり、大きな変化が起きている。以前の協議会にて棟久様からいただいたご意見も参考にして今年度はInstagramによる発信をスタートした。

【棟久委員】

- ・Instagramについて学校の様子が確認できてありがたい。情報収集が気軽にできて非常に役に立っている。

【棟久委員】

- ・生徒数が減っているが、校則が厳しすぎると萎縮して学校に行きづらくなってしまう部分もあると思う。少し緩めてみてもいいのではないかな。例えばリボンの色の2色展開など、もう少し生徒の多様化に合わせ柔軟なものに変化があってもいいのではないかな。多様性を大切にするという意味で、自由な部分も増やしてよいのではないかな。

→【菊地委員】

- ・生徒のインタビューでも、行事の時には校則を緩めてほしいという意見があった。メリハリをつけることが大切だと思う。

→【棟久委員】

- ・見た目に関係なく「やるときはやる」ができる生徒はたくさんいると思う。

→【富本校長】

- パッと目に見える変更をすぐに行うのは難しいが、少しずつ校則やその運用については考えているところ。
- 「いけてる」、「いけてない」を気にしたり気負ったりせずに安心して通いたい、という生徒とのバランスも考える必要がある。

→【藤田副委員長】

- 実際に生徒は校則を見て入学を決めたりする？

→【棟久委員】

- 実際のところは、生徒同士の口コミが大きい。学校行事の時だけでも指導の基準が緩和されれば少しは影響があるのではないかと思うので一度検討してみしてほしい。

→【富本校長】

- 多様な意見を出し合うために、様々な立場から委員になっていただいているので、意見をいただけるのは大変ありがたい。
- 今後もいろいろご意見をいただいて、相談していけたらと思っています。ありがとうございました。